

6 災害調査 課題名 新潟県津南町大赤沢で起こった雪崩調査

研究代表者	雪氷防災： 山口 悟	実施期間	平成 17 年度
研究参加者	雪氷防災：山口悟 新潟大学：和泉薫、河島克久、伊豫部勉 森林総合研究所：竹内由香里		

[目 的]

12月24日午前9時40分頃津南町大赤沢の国道405号線で雪崩が発生し、親子連れ2名が乗車したワンボックスカーが巻き込まれて中津川側の谷に約30m押し流された。また今回の雪崩が起こった24日には隣の十日町市の控木、細尾でも雪崩が発生し、控木では女性の運転する車が雪崩に巻き込まれた。今後の雪崩対策ならびに雪崩研究に資することを目的とし、現場の雪質状況を調査した。

[実施内容]

津南町大赤沢の雪崩が発生した現場周辺(N36°53'27.2" ; E138°37'59.0")において、雪崩発生の日2月25日に断面観測を行った。また現場の残雪等の測量を行った。

[成果と効果]

現場にはまだ雪崩によって谷に押し流された車が残されていた(図1)。現場で行った測量より雪崩の起こった斜面の傾斜は約23°と比較的緩やかであった。断面観測の結果(図2)から謙虚な弱層は見られなかったが、密度の軽い新積雪が40cm以上も積もっていたことから表層雪崩が起こりやすい状況であったと推定できる。なお、津南町ならびに十日町市の12月24日の積雪深はそれぞれ282cm、237cmであった。



図1 津南町大赤沢における雪崩発生現場

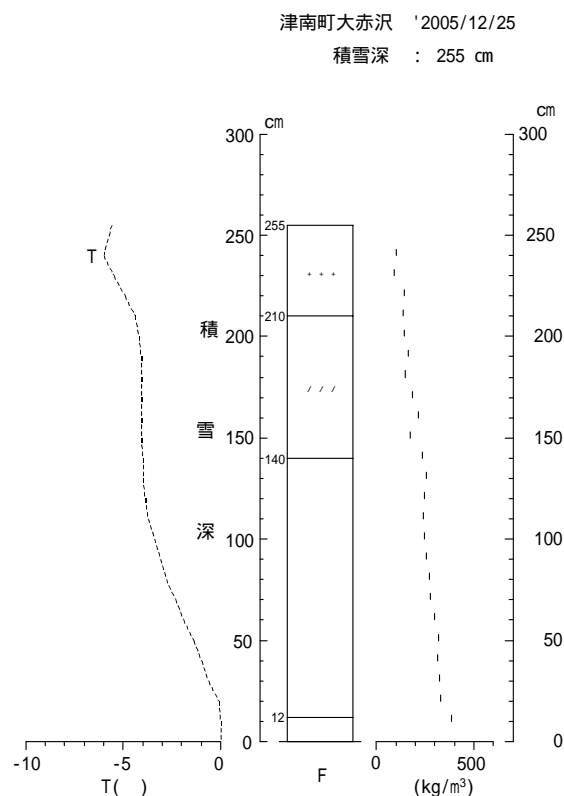


図2 津南町大赤沢における断面観測結果